

組織神学のスタンダード登場!

現代アメリカ福音派陣営の主流を代表する組織神学者による、神学書の決定版。神とはどのような存在なのか、キリストは何のために来られたのか、人はいかにして救われるのか、世の終わりはどうなるのか……。キリスト者としてぜひとも知っておきたい事柄を懇切丁寧に解説。保守的な主張を鮮明に打ち出しつつ、学問的な批評にも十分堪えうる議論を展開していく。今日の教会に挑戦する諸思想的確に分析し、真に聖書的な在り方を提示する。

キリスト教神学 全4巻

ミラード・J・エリクソン 宇田進 (東京基督教大学名誉教授) 監修

キリスト教神学

ミラード・J・エリクソン [著]

第1巻

宇田進 [監修] / 安黒務 [訳]

いのちのことは社

Christian
Theology VOL.1
Millard J. Erickson

第1巻 安黒務訳

(関西聖書学院講師)

A5判上製 横組360頁 3,200円+税

第1巻の内容

第1部 神を研究すること(序論)

- 第1章 神学とは何か
- 第2章 神学と哲学
- 第3章 神学の方法
- 第4章 神学と聖書の批評的研究
- 第5章 キリスト教のメッセージの今日化
- 第6章 神学とその言語
- 第7章 ポストモダンと神学

第2部 神を知ること(聖書論)

- 第8章 神の普遍的啓示
- 第9章 神の特別啓示
- 第10章 啓示の保存：靈感
- 第11章 神の言葉の信頼性：無誤性
- 第12章 神の言葉の力：権威

ミラード・J・エリクソン博士 Millard J. Erickson

1932年生まれ。ベセル大学、ミネソタ大学、ベセル神学校、ノーザン・バプテスト神学校、シカゴ大学、ノースウェスタン大学・ギャレット神学校で研究を積む。その後1年間ドイツのミュンヘン大学へ留学、神学者ヴォルフハルト・バネンベルクのもとで研究を重ねる。

1957年から60年までミネソタ州にあるThe Cross of Glory Baptist教会で牧会にあたる。

1964年にホイートン大学の助教授就任を機に、神学教育と研究に専念。

1969年からは、20年以上にわたり所属教派のベセル神学校の中心的指導者として神学教育にあたる。

1992年からテキサス州サウスウェスタン・バプテスト神学校で教鞭をとり、現在は、ペイラー大学神学部やウェスタン神学校で教鞭をとる。

著書は「言葉は人となった」(1991)、「三つの位格をもつ神」(1995)、「彼らはいかにして救われるのか」(1996)、「全能の父なる神」(1998) 他、多数。

推薦の言葉

泉田昭氏 日本バプテスト教会連合 練馬バプテスト教会名誉牧師

Akira Izuta

本書は、最新の研究成果を広く全体としてとらえ、歴史の流れにおける神学論議を、健全でバランスよくまとめています。

この翻訳出版は、日本のキリスト教界に大きく貢献することでしょう。牧師、神学生だけでなく、信徒指導者や一般の信徒の方々にもおすすめします。

牧田吉和氏 神戸改革派神学校校長

Yoshikazu Makita

本格的な福音主義組織神学の登場である。

本書は、福音主義神学の伝統を継承しつつ、閉鎖的ではない。現代神学にも開かれた姿勢を保ちつつ、聖書の真理に堅く立つ。学問的でありつつ、平易で教育的である。牧師・神学生に、また信徒にとっても必携の書である。

河野勇一氏 日本バプテスト教会連合 緑教会牧師/東海聖書神学塾・神学教師

Kawano Yuichi

約20年前、ベセル神学校でエリクソン師の「組織神学」を受講する機会を得たが、神学的諸主題を広い視野と明晰な切り口で解説されることに感動したものである。今、「神の荘厳さ」を基調にしたその神学の全貌を日本語で味わえるとは、何という幸いであろう。

D・リトル氏 聖書神学舎 組織神学講師/東村山福音自由教会 開拓伝道師

D.Little

本書は英語圏の福音派の基礎を築いてきた神学書で、高い評価を受けています。米国では数多くの神学校が、組織神学のテキストとして採用しています。難解な部分もありますが、じっくりと取り組めば、信仰の土台がさらに確固たるものとなることでしょう。

続刊の
発売予定

2003年末▼第2巻 神論▼予価3,000円

2004年春▼第3巻 人間論/罪論/キリスト論▼予価4,200円

2004年末▼第4巻 聖霊論/贖罪論/教会論/終末論/総索引▼予価4,500円

揺るぎない信仰の土台を築くために。